

事後評価シート

調査研究課題名	公共工事の入札・契約における行財政効率化と適正施工確保の両立のための『制度設計（メカニズム・デザイン）』に関する研究
担当者	副所長 番場哲晴、 前主任研究官 古本一司、 前研究官 朝日ちさと、 研究官 来間玲二
①当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、一般競争入札導入など公共工事において競争が促進されている一方で、品質の確保に対する懸念が増大している状況をうけ、その対策に資することを目的として行ったものである。メカニズム・デザインの理論に基づくモデル分析と、一連の入札制度改革の流れをまとめたことで、有意義であると考え。モデル分析に関しては、より実証的な分析を行っていく必要がある点など課題を残したが、今後の検討材料を提供できた点で、一応の目標は達成できた。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>適切な契約を設計することを通じて品質の確保をはかるため、契約理論、特に近年発展しているメカニズム・デザインの理論を、公共工事の契約制度設計に適用すべく分析を行った。それに加えて、現実の制度改革の流れを公表資料に基づいて分析したもので、調査研究内容は理論モデル分析と現実の流れの整理の両面から問題に迫ったものであり、妥当であると考え。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>本研究では、発注者、受注者双方へのヒアリング調査を基礎として、理論的分析と制度分析を行った。適宜、経済学とりわけ契約理論において実績ある有識者らの助言を得ながら行ったものであり妥当であると考え。</p>
④成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページにて公表する。社会資本整備のあり方に関心が高まる中、品質を確保していくための制度設計に資する検討材料のひとつとして活用されることが期待される。</p>
⑤その他	<p>本研究の成果は、以下のとおり発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PRI Review 第 23 号・第 32 号